

社会福学科 社会福祉専攻 2年 後期 専門科目

1. 社会福祉原論Ⅱ
2. 社会福祉援助技術論Ⅵ
3. 地域福祉論Ⅱ
4. 福祉行財政と福祉計画
5. 福祉サービスの組織と経営
6. 社会保障論Ⅱ
7. 就労支援サービス
8. 更生保護制度
9. 相談援助演習Ⅳ
10. ソーシャルワーク研究Ⅰ
11. ソーシャルワーク研究Ⅱ
12. 医療秘書実務・医療管理学
13. 生涯スポーツ演習
14. 臨床美術の実践Ⅱ
15. 臨床心理学
16. 精神保健
17. 心理学研究Ⅱ

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 社会福祉原論Ⅱ			担当教員 氏名: 中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念と意義について理解する ・社会福祉の対象と援助の体系および方法論について理解する ・社会福祉固有の専門性と倫理について理解する 					社会福祉 歴史 制度
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力	社会福祉の理念と必要性について理解することができる				
C 論理的思考力	社会政策や社会福祉の供給体制について理解することができる				
D 問題解決力	理論を活用して実践に結びつける力を身につける				
F チームワーク・リーダーシップ	先人による福祉実践から彼らのリーダーシップや福祉観を考察する				
G 倫理観	政策決定(プロセス含)における倫理観の必要性に気づく				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:その他とは授業への姿勢、態度のことである					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①福祉政策の現代的課題			【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②福祉政策の論点Ⅰ			【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③福祉政策の論点Ⅱ			【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④福祉政策における政府の役割			【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤福祉政策における市場の役割			【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥福祉政策における国民の役割			【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価			【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧福祉供給部門			【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨福祉供給過程			【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩福祉利用過程			【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪福祉政策と教育政策			【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫福祉政策と住宅政策			【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬福祉政策と労働政策			【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭相談援助と福祉政策の関係			【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮まとめ			【事前】テキスト後半、資料の確認 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 現代社会と福祉 ※原論Ⅰのものを使用する 著者: 川村匡由 島津淳 佐橋克彦 西崎緑 出版社: 電気書院 ISBN: 978-4-485-30411-2			その他参考文献など: 適時紹介する。「厚生労働白書」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 社会福祉援助技術論VI			担当教員 氏名: 松尾 祐子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を学ぶ授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
ソーシャルワーカー(社会福祉士)の業務として相談援助の理論と、具体的な方法を事例を用いて学ぶ。対象を細分化して捉えるのではなく、個人、家族、小集団・組織、地域など、どのような対象であっても、対応できる相談援助の方法を理解する。					相談援助の対象、ジェネラリストソーシャルワーク、ケアマネジメント、社会資源、アウトリーチ、多様性、マイノリティ	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			1年次に学んだ相談援助の理論と方法の理解をさらに深める。			
B 専門的技術			実践場面で活かせる相談援助の専門的技術を身につける。			
C 論理的思考力			対象を全体的・包括的に捉え、整理・分析しニーズを理解できる。			
D 問題解決力			相談場面を複眼的にとらえ、社会的資源を活用できる。			
G 倫理観			相談場面に必要な倫理を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: 30 %		発表: %		実技試験: %
						その他: %
特記事項:その他として、授業に対する参加度や態度、毎回の感想(出席カード)を含む。アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 小テストを行う。(レポートの場合あり) 毎回授業の感想、新聞を読んだレポート(要約と感想)随時						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①オリエンテーション、相談援助における対象の理解			【予習・復習】レポート テキスト1章	【予習】120分 【復習】120分		
②ソーシャルワークのグローバル定義			【予習・復習】レポート テキスト1章	【予習】120分 【復習】120分		
③ソーシャルワークの変遷			【予習・復習】レポート テキスト6章	【予習】120分 【復習】120分		
④ジェネラリストソーシャルワーク			【予習・復習】レポート テキスト6章	【予習】120分 【復習】120分		
⑤ポストモダンのアプローチ			【予習・復習】レポート テキスト8章	【予習】120分 【復習】120分		
⑥ケアマネジメント①			【予習・復習】レポート テキスト2章	【予習】120分 【復習】120分		
⑦ケアマネジメント②			【予習・復習】レポート テキスト2章	【予習】120分 【復習】120分		
⑧グループを活用した相談援助			【予習・復習】レポート テキスト3章	【予習】120分 【復習】120分		
⑨コーディネーションとネットワーク			【予習・復習】レポート テキスト4章	【予習】120分 【復習】120分		
⑩相談援助における社会資源①			【予習・復習】レポート テキスト5章	【予習】120分 【復習】120分		
⑪相談援助における社会資源②			【予習・復習】レポート テキスト5章	【予習】120分 【復習】120分		
⑫アウトリーチ、ソーシャルアクション			【予習・復習】レポート プリント	【予習】120分 【復習】120分		
⑬多様性の尊重(マイノリティへの支援)			【予習・復習】レポート プリント	【予習】120分 【復習】120分		
⑭スーパービジョンとコンサルテーション			【予習・復習】レポート プリント	【予習】120分 【復習】120分		
⑮まとめと振り返り			【予習・復習】レポート プリント	【予習】120分		
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規 978-4-8058-5104-3				その他参考文献など: 『社会福祉の援助観』狭間香代子		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): プリントを整理しておいてください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 地域福祉論Ⅱ			担当教員 氏名: 門田 晋			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実践的な地域福祉の方法を身に付けるため、実務経験を活かしながらソーシャルワークの視点から地域課題を分析						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
地域福祉論Ⅰに引き続き、地域福祉の展開の仕方を各方法論を用いながら、最近の地域福祉の動向と結びつけ課題解決の方法を学ぶ。					コミュニティソーシャルワーク、 地域福祉の推進、 アウトリーチ、ソーシャルアクション	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力	地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。					
B 専門的技術	地域福祉を実践できる能力を習得する。					
C 論理的思考力	社会問題を地域福祉の概念を根拠にし、複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。					
D 問題解決力	地域課題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。					
H コミュニケーション力	地域課題を多角的に分析するため、協働しながら問題を解決するコミュニケーション力を養う					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 80 %	発表: 10 %	実技試験:	%	その他: 10 %
特記事項:「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークとプレゼンテーションを行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末はレポート別に定めた日時に実施。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間レポートと期末レポートはABCD評価で採点し返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①地域福祉の推進方法Ⅰ			【予習】Vの地域福祉の推進方法の1~4を読む 【復習】Vの地域福祉の推進方法の1~4をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
②地域福祉の推進方法Ⅱ			【予習】Vの地域福祉の推進方法の5~9を読む 【復習】Vの地域福祉の推進方法の5~9をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
③地域福祉を推進する人Ⅰ			【予習】VIの地域福祉の推進主体①の1~4を読む 【復習】VIの地域福祉の推進主体①の1~4をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
④地域福祉を推進する人Ⅱ			【予習】VIの地域福祉の推進主体①の5~7を読む 【復習】VIの地域福祉の推進主体①の5~7をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑤地域福祉を推進する組織Ⅰ			【予習】VIIの地域福祉の推進主体②の1~4を読む 【復習】VIIの地域福祉の推進主体②の1~4をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑥地域福祉を推進する組織Ⅱ			【予習】VIIの地域福祉の推進主体②の5~7を読む 【復習】VIIの地域福祉の推進主体②の5~7をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑦子供と地域福祉Ⅰ			【予習】VIIIの子供と地域福祉の1~3を読む 【復習】VIIIの子供と地域福祉の1~3をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑧子供と地域福祉Ⅱ			【予習】VIIIの子供と地域福祉の4~5を読む 【復習】VIIIの子供と地域福祉の4~5をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑨災害と地域福祉Ⅰ			【予習】IXの災害と地域福祉の1~3を読む 【復習】IXの災害と地域福祉の1~3をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑩災害と地域福祉Ⅱ※演習			【予習】IXの災害と地域福祉の4を読む 【復習】IXの災害と地域福祉の4をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑪地域福祉計画Ⅰ			【予習】Xの地域福祉計画とその実際の1~2を読む 【復習】Xの地域福祉計画とその実際の1~2をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑫地域福祉計画Ⅱ			【予習】Xの地域福祉計画とその実際の3~4を読む 【復習】Xの地域福祉計画とその実際の3~4をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑬地域福祉計画Ⅲ			【予習】Xの地域福祉計画とその実際の5~7を読む 【復習】Xの地域福祉計画とその実際の5~7をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑭地域福祉と評価Ⅰ			【予習】XIの地域福祉と評価手法の1~2を読む 【復習】XIの地域福祉と評価手法の1~2をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑮地域福祉と評価Ⅱ			【予習】XIの地域福祉と評価手法の3~4を読む 【復習】XIの地域福祉と評価手法の3~4をレポートでまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 新版よくわかる地域福祉(ミネルヴァ書房) ISBN978-4-623-08592-7				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域福祉の基礎からの地域福祉の展開や方法を学んでいきます。地域福祉の理解を促進するため予習と復習を行ってください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：福祉行財政と福祉計画				担当教員氏名：宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			社会福祉士としての実務経験をもとに福祉行政や福祉計画の実際を事例を交えて授業する。			
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード		
福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。)について理解するとともに、福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点についても理解する。				福祉行政、社会福祉法、地域福祉計画、地域福祉活動計画、地域住民		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5		
A 知識・理解力		自治体の役割と福祉計画の位置づけについて総合的な知識を身につける。				
B 専門的技術		プランニング事例を通して策定方法やスキルを理解する				
C 論理的思考力		計画策定のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：50%	レポート：%	発表：20%	実技試験：%	その他：30%		
特記事項：「その他」とは、授業出席、態度のことである。本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時で実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：第8回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画			準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等)			
			学 習 内 容			学 習 に 必 要 な 時 間 (分)
①オリエンテーション						【復習】30分
②福祉行財政と福祉計画			(予)教科書「福祉と制度」を読む			【予習】30分 【復習】30分
③福祉行財政と福祉計画 福祉の法制度			(予)「福祉の法制度の展開」を読む			【予習】30分 【復習】30分
④福祉行政 福祉行政の組織			(予)「福祉計画の概要」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑤福祉行政 社会福祉基礎構造改革			(予)「社会福祉基礎構造」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑥福祉財政 財政と社会福祉			(予)「財政と社会福祉」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑦福祉財政 福祉サービスの利用と費用負担			(予)「福祉サービスの利用と費用負担」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑧福祉行政の組織・団体と専門職の役割、中間まとめ			(予)「相談過程・相談体制」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑨福祉計画の目的と意義			(予)「福祉計画の目的と意義」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑩福祉計画の理論と技法 福祉援助の現場から福祉計画へ			(予)「福祉計画の理論と技法」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑪福祉計画の理論と技法 老人福祉計画と介護保険事業計画			(予)「老人福祉計画と介護保険事業計画」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑫福祉計画の理論と技法 障害者福祉計画・次世代育成支援行動計画			(予)「障害者福祉計画・次世代育成支援計画」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑬福祉計画の理論と技法 地域福祉計画			(予)「地域福祉計画」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑭福祉計画の理論と技法 地域福祉計画策定の方法と実際			(予)各自が住んでいる地域の「地域福祉計画」を読む			【予習】30分 【復習】30分
⑮発表とまとめ						【予習】30分 【復習】30分
使用テキスト：新・社会福祉士養成講座 第10巻「福祉行財政と福祉計画 第2版」 社会福祉士養成講座編集委員会＝編集 ISBN978-4-8058-5430-3				その他参考文献など： 社会福祉基礎シリーズ 11「社会保障の制度と行財政」 秋元・一圓・柄本・椋野 編 有斐閣		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 内容が多岐に渡っており、かなり難解ですので、予習は不可欠です。また、自分の住んでいる地域の福祉計画や取り組みに関心を持ってください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 福祉サービスの組織と経営			担当教員 氏名: 虹釜 和昭			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのよ 児童福祉施設にて25年(うち施設長5年)の経験から、施設運営管理の実際についてケースメソッド等か うな授業を行っているか: ら、実務における専門性と人間性の在り方、運営管理におけるリーダーシップの具体的展開を学ぶ。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
・ 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、 営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。 ・ 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・ 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。					福祉サービス 経営理論 組織論	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 8. 9. 10		
A 知識・理解力	福祉サービスを行なう組織や団体について理解する。					
B 専門的技術	組織や経営理論を学ぶ。					
E 自己管理能力	運営管理の重要性と方法について理解する。					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダーシップの基礎理論について理解する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 社会福祉士施設の組織マネジメントにかかるグループディスカッション及びロールプレイを実施する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回目終了後。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験後に解説を行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な 時間(分)		
①福祉サービスにおける組織・経営			【予習】テキスト内容の確認 【復習】組織論・経営論のまとめ	【予習・復習】 240分		
②福祉サービスと制度			【予習】社会福祉制度の確認 【復習】福祉サービスと経営の整理	【予習・復習】 240分		
③福祉サービスにかかわる組織や団体			【予習】テキスト内容の確認 【復習】各種法人の概念整理	【予習・復習】 240分		
④福祉サービスにかかわる組織や団体 社会福祉法人			【予習】テキスト内容の確認 【復習】社会福祉法人の概念整理	【予習・復習】 240分		
⑤福祉サービスにかかわる組織や団体 特定非営利活動団体等			【予習】テキスト内容の確認 【復習】NPO法人の概念整理	【予習・復習】 240分		
⑥福祉サービスの組織と経営の基礎理論			【予習】テキスト内容の確認 【復習】経営に関する基礎概念整理	【予習・復習】 240分		
⑦福祉サービスの組織と経営の基礎理論 事業計画 組織 管理運営の基礎理論他			【予習】テキスト内容の確認 【復習】事業計画の作成理論整理	【予習・復習】 240分		
⑧福祉サービスの組織と経営の基礎理論 集団力学 リーダーシップによる基礎理論			【予習】テキスト内容の確認 【復習】組織論の具体的課題整理	【予習・復習】 240分		
⑨福祉サービスの管理運営の方法(1) サービス管理			【予習】テキスト内容の確認 【復習】サービス管理の基礎整理	【予習・復習】 240分		
⑩福祉サービスの管理運営の方法(2) サービスマネジメント			【予習】テキスト内容の確認 【復習】福祉マネジメントの整理	【予習・復習】 240分		
⑪福祉サービスの管理運営の方法(3) 苦情対応とリスクマネジメント			【予習】テキスト内容の確認 【復習】リスクマネジメントの整理	【予習・復習】 240分		
⑫福祉サービスの管理運営の方法(4) 人事管理と労務管理			【予習】テキスト内容の確認 【復習】人事・労務管理の基礎整理	【予習・復習】 240分		
⑬福祉サービスの管理運営の方法(5) 会計管理と財務管理			【予習】テキスト内容の確認 【復習】福祉会計・財務の管理整理	【予習・復習】 240分		
⑭福祉サービスの管理運営の方法(6) 情報管理			【予習】テキスト内容の確認 【復習】福祉情報のあり方整理	【予習・復習】 240分		
⑮ふりかえり			【予習】福祉サービスの最新動向 【復習】福祉経営戦略のまとめ	【予習・復習】 240分		
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座専門科目 第1巻 「福祉サービスの組織と経営」石川久展、武井 敏、松原由美、編著 日本ソーシャルワーク学校教育連盟編 ISBN: 978-4-8244-1				その他参考文献など: よくわかる「組織論」ミネルヴァ書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「社会福祉学」のみならず、「経営学」の学びを意識していただきたい。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 社会保障論Ⅱ			担当教員 氏名: 根津 敦			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			現場の具体的なケースを紹介している。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
社会保障論Ⅰに引き続いて、福祉国家の構築にとって必要な社会保障制度について学ぶ。理論・現状と課題・歴史・制度について理解する。					社会保障の理念・歴史・概念、所得保障制度、医療保障制度、介護保険制度、労働保険制度	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。			
B 専門的技術			社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。			
C 論理的思考力			社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。			
D 問題解決力			社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。			
G 倫理観			常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 80 %		発表: 0 %		実技試験: 0 %
その他: 20 %						
特記事項: 課題に対しテキストからの引用だけでなく、自分なりの見方、考え方に触れてあるものを評価する。その他出席態度を評価。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回レポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜コメントと採点を言い返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①年金保険制度の概要(1)			【予習】テキストを読む 【復習】①の復習		【予習】120分 【復習】120分	
②年金保険制度の概要(2)			【予習】テキストを読む 【復習】②の復習		【予習】120分 【復習】120分	
③年金保険制度の概要(3)			【予習】テキストを読む 【復習】③の復習		【予習】120分 【復習】120分	
④労災保険制度と雇用保険制度の概要(1)			【予習】テキストを読む 【復習】④の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑤労災保険制度と雇用保険制度の概要(2)			【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑥労災保険制度と雇用保険制度の概要(3)			【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑦社会保険と社会扶助の考え方			【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑧生活保護制度の概要(1)			【予習】テキストを読む 【復習】⑧の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑨生活保護制度の概要(2)			【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑩社会手当制度の概要			【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑪社会福祉制度の概要			【予習】テキストを読む 【復習】⑪の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑫社会保険と民間保険の現状			【予習】テキストを読む 【復習】⑫の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑬諸外国の社会保障			【予習】テキストを読む 【復習】⑬の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑭社会保障の国際比較・国際化			【予習】テキストを読む 【復習】⑭の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめと振り返り			【予習】テキストを読む 【復習】⑮の復習		【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座「共通科目」⑦『社会保障』、編集委員:金子克充・西村淳・平岡公一、中央法規 978-4-8058-8237-5				その他参考文献など: 厚生労働白書、福祉六法		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料とテキストを中心に、講義を進めます。わからない点、疑問に思った点、いつでも講師に相談をしてください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 就労支援サービス			担当教員 氏名: 司・正幸			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	講義	選択必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(選択必修)
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 6コマ目に2グループに分け、テキストの就労事例をケアマネジメント手法(インテーク、アセスメント、プラン ニング、介入、モニタリング)で分析記録、発表してアドバイスを受ける就労実習の演習を実施する。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。就労支援に係る組 織、団体及び専門職について理解を深め、就労支援分野との連携について理解する。						連携、制度、労働情勢 就労支援
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 8. 9	
A 知識・理解力			就労支援制度の概要を知る。			
B 専門的技術			関係機関との連携をとりながらそれぞれの役割を学ぶ。			
C 論理的思考力			法律や制度の理解を深め、支援の流れを学ぶ。			
D 問題解決力			問題解決に向けての手法とケアマネジメントの理解を深める。			
H コミュニケーション力			本人をとりまく環境を調整する総理解力を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 35 %		発表: %		実技試験: %
						その他: 5 %
特記事項:その他とは授業の出席状況や受講態度のことである。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適時レポート評価を行う。最終講義の次週に試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験結果手渡し実施。毎回講義後の感想を踏まえた次回講義実施。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な 時間(分)
①働くことの意味と社会福祉士の役割 雇用・就労の動向と施策 (1) 労働市場の変化 (2) 労働に関する法律と制度					【予習】教科書(働くことの意味と社会福祉士の 役割)を読む 【復習】①の復習	
②障害者と就労支援 (1) 障害者の就労の現状 (2) 障害者福祉施策における就労支援 (3) 障害者雇用施策における就労支援					【予習】教科書(障害者と就労支援)を読む (1)(2)(3) 【復習】②の復習	
③障害者と就労支援 (4) 特別支援学校における就労支援 (5) 民間の取組み (6) 諸外国の取組み					【予習】教科書(障害者と就労支援)を読む (4)(5)(6) 【復習】③の復習	
④低所得者と就労支援 (1) 低所得者等の就労支援の現状 (2) 低所得者等にかかる就労支援					【予習】教科書(低所得者と就労支援)を読む 【復習】④の復習	
⑤専門職の役割と実際 (1) 障害者福祉施策における専門職の役割 (2) 障害者雇用施策における専門職の役割 (3) 低所得者等の就労支援における専門職の役割 (4) その他の収録支援の従事者					【予習】教科書(専門職の役割と実際)を読む 【復習】⑤の復習	
⑥就労支援の連携と実際 (1) 連携の過程 (2) 連携の意義 (3) 連携の実際					【予習】教科書(就労支援の連携と実際)を読 む 【復習】⑥の復習	
⑦さまざまな働き方の支援					【予習】教科書(さまざまな働き方の支援)を読 む 【復習】⑦の復習	
⑧まとめ					【予習】就労支援サービス全体の復習をする	
使用テキスト:新・社会福祉士養成講座 第18巻「就労支援サービス」 中央法規出版 ISBN:878-4-8058-5304-7					その他参考文献など:厚生労働省編「労働経済白書 平成28年度版」(日経印刷) 日本経済新聞 厚生労働省 『「福祉から雇用へ」推進5か年計画』	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 就労支援における社会福祉士の役割を学びましょう。積極的に授業に臨んでください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 更生保護制度			担当教員 氏名: 八木 真一			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: テキストに記載されていない専門的業務の内容を取り上げることや、実務の中で経験した処遇に係る面接技法、対象となる人やその関係者との関わり方などを具体的事例を挙げて講義を進めている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。 ・更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 ・刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。 					司法 更生 相談援助	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力			更生保護制度の概要を理解する。			
B 専門的技術			保護観察の方法や実施上の諸施策について学ぶ。			
D 問題解決力			制度などを用いた支援について理解する。			
G 倫理観			司法に必要な倫理観を醸成する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: 30 %
特記事項: その他とは、授業出席状況、授業中の受講姿勢・態度などのことである。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートを中間期に、第8講義時にまとめを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートに関しては、講義の中で更生保護と福祉が相互に必要なとされる実情とその有効性について特に理解させる。試験においては、更生保護制度の内容と更生保護機関が実施する施策についての理解を深めさせるものとし、講義時に試験結果に基づき正確な理解を確認する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①更生保護制度の概要(刑事司法のなかの更生保護)				【予習】テキスト(p.1~14)を予習すること 【復習】制度の意義を理解する	【予習】120分 【復習】90分	
②更生保護制度の概要(仮釈放 保護観察)				【予習】テキスト(p.15~36)を予習すること 【復習】刑事政策の中での機能	【予習】120分 【復習】90分	
③更生保護制度の概要(保護観察 生活環境の調整 更生緊急保護)				【予習】テキスト(p.37~49)を予習すること 【復習】制度と福祉との関連を理解	【予習】120分 【復習】90分	
④更生保護制度の概要(被害者支援 恩赦 犯罪予防活動)				【予習】テキスト(p.50~60)を予習すること 【復習】制度の必要性を理解、課題レポート(次々回に提出)	【予習】120分 【復習】90分	
⑤更生保護制度の担い手 (保護観察官 保護司 更生保護施設 民間協力者)				【予習】テキスト(p.61~76)を予習すること 【復習】更生保護に関わる人々の役割と必要性の理解	【予習】120分 【復習】90分	
⑥更生保護制度における関係機関・団体との連携 (裁判所 検察庁 矯正施設 児相 職安・福祉事務所 民間団体)				【予習】テキスト(p.77~101)を予習すること 【復習】刑事政策の総仕上げの制度理解	【予習】120分 【復習】90分	
⑦医療観察制度の概要				【予習】テキスト(p.103~115)を予習すること 【復習】施策理解と社会福祉士との関連	【予習】120分 【復習】90分	
⑧まとめ(更生保護の実際と今後の展望)				【予習】テキスト(p.117~145)を予習すること 【復習】更生保護の課題と施策との関連、試験結果に基づき理解の確認	【予習】120分 【復習】90分	
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 20 「更生保護制度」第4版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版株式会社 ISBN-978-4-8058-5433-4				その他参考文献など: 「少年非行学」有信堂高文社発行 山口 透著 ISBNなし		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 上記のテキストにそって授業を進めるので、あらかじめ重要語句等の理解に努め予習をしておくこと。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 相談援助演習IV			担当教員 氏名: 松尾 祐子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
実習を通じて体験した事例について、事例検討を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。					事例検討、スーパービジョン				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			ソーシャルワークに必要な知識と技術を、理論化し体系立てることができる。						
C 論理的思考力			利用者の抱える問題を、複眼的論理的に分析できる。						
D 問題解決力			適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。						
G 倫理観			ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。						
H コミュニケーション力			ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
②事例検討(高齢分野)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
③事例検討(高齢分野)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
④事例検討(障害分野)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑤事例検討(障害分野)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑥事例検討(児童分野)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑦事例検討(児童分野)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑧事例検討(社会福祉協議会)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑨事例検討(社会福祉協議会)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑩事例検討(病院)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑪事例検討(病院)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑫スーパービジョン			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑬スーパービジョン			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑭スーパービジョン			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
⑮まとめ、ソーシャルワーカーの役割			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分					
使用テキスト: 福祉小六法 978-4-8058-3925-6 現代社会福祉用語の基礎知識 978-4-7620-2174-9			その他参考文献など: 日本医療社会福祉協会「相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック」中央法規						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: ソーシャルワーク研究 I			担当教員 氏名: 中村 尚紀、松尾 祐子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択必修				
実務経験を用いてどのよ 社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネージャー等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かしたうな授業を行っているか: 授業を行う									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
・専門職が研究を行う意義の学びから研究の問い、研究倫理、研究デザインの方法、研究論文の書き方等の研究の基礎の知識や技術を身につける					リサーチクエスト、研究倫理、先行文献、研究計画、質的研究、量的研究				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10				
A 知識・理解力			福祉研究や文献等に触れることで総合的な知識力を高めることができる						
B 専門的技術			研究の学びを通してエビデンスを持ったの知識・技術を身につけることができる						
C 論理的思考力			研究の問いを熟考することで多角的な視点かつ思考力を身につけることができる						
D 問題解決力			研究を通して問題解決に至る力を身につけることができる						
G 倫理観			研究を通して生命観や倫理観、専門職の倫理綱領を深く理解することができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: その他とは、研究の内容、論文、活動の取り組み姿勢や態度のことである。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間・期末に提示された課題に沿って発表を行い評価する									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
研究の基礎 I -研究の意義-				【予習】第1章研究することの大切さの1を読む 【復習】第1章研究することの大切さの1をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究の基礎 II -研究の問いの立て方-				【予習】第1章研究することの大切さの2, 3を読む 【復習】第1章研究することの大切さの2, 3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
気づきを研究に発展させるポイント				【予習】第2章研究活動にはどのようなものがあるのかを読む 【復習】第2章研究活動にはどのようなものがあるのかをまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究の環境づくり-個人研究、共同研究、研究の資源について-				【予習】第3章研究ができる環境をつくらうを読む 【復習】第3章研究ができる環境をつくらうをまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究デザイン I -リサーチクエストの立てかた-				【予習】第4章研究をデザインしようの1を読む 【復習】第4章研究をデザインしようの1をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究デザイン II -先行研究の探し方と整理の仕方-				【予習】第4章研究をデザインしようの2を読む 【復習】第4章研究をデザインしようの2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
中間発表				【予習】第1章～第4章の2までを読む 【復習】第1章から第4章の2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究計画の立て方-研究計画書の書き方等-				【予習】第4章研究をデザインしようの3を読む 【復習】第4章研究をデザインしようの3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究倫理とは何か-研究倫理の目的、倫理審査委員会、研究倫理のジレンマ-				【予習】第5章研究の倫理・ルールを知ろうを読む 【復習】第5章研究の倫理・ルールを知ろうをまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
データの収集方法 I -質的研究の特性-				【予習】第6章データを集めようの1を読む 【復習】第6章データを集めようの1をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
データの収集方法 II -質的研究の種類-				【予習】第7章データを分析・考察しよう1, 2を読む 【復習】第7章データを分析・考察しよう1, 2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
データの収集方法 III -量的研究の特性-				【予習】第6章データを集めようの2を読む 【復習】第6章データを集めようの2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
データの収集方法 IV -量的研究の種類-				【予習】第7章データを分析・考察しよう3, 4を読む 【復習】第7章データを分析・考察しよう3, 4をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
研究発表の基礎-プレゼンテーションの知識と技術について-				【予習】第8章学会発表してみようを読む 【復習】第8章学会発表してみようをまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
期末発表				【予習】第1章から第8章を読む 【復習】第1章から第8章をまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
使用テキスト: ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック-実践と研究を結びつけるプロセスと方法-(中央法規) ISBN978-4-8058-5861-5				その他参考文献など: 『論文の書き方マニュアル-ステップ式リサーチ戦略のすすめ』新版(有斐閣アルマ)花井等(著)若松篤(著)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 目的意識をしっかりと持ってすすめてください。ソーシャルワーク研究 II にもつながってきますので、しっかり予習と復習を行いましょう。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: ソーシャルワーク研究Ⅱ			担当教員 氏名: 松尾 祐子 中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのよ社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネージャー等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かした授業を行っているか: た授業を行う									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
・研究テーマを決め、各研究室の教員の指導のもとに研究活動を行い、これを通じて研究の進め方や問題解決法などを学ぶ ・将来、専門職となった際に必要な研究の知識や学会発表のプレゼン技法等を身につける					ソーシャルワーク、先行研究、研究計画、研究調査、プレゼン技法、考察				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10				
A 知識・理解力			福祉研究や文献等に触れることで総合的な知識力を高めることができる						
B 専門的技術			ソーシャルワークにおける視野、視界、視座の範囲を広げることができる						
C 論理的思考力			想起、研究、実践のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる						
D 問題解決力			研究を通して問題解決に至る力を身につけることができる						
G 倫理観			研究を通して生命観や倫理観を身につけることができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	70 %
特記事項:その他とは、研究の内容、論文、活動の取り組み姿勢や態度のことである。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 デスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 課題研究論文等の提出と発表を義務づける									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
【オリエンテーション】研究の目的、学習の進め方と姿勢、評価方法等の説明									
テーマ、研究領域の設定(10月) 全体および個別指導									
テーマ決定及び研究計画の作成(10月)									
調査、研究の実施(11~12月)									
中間発表(12月)									
結果分析と考察(1月)									
論文や研究成果の提出(~1月)									
研究発表会(2月)									
使用テキスト:				その他参考文献など: 『論文の書き方マニュアル—ステップ式リサーチ戦略のすすめ』新版(有斐閣アルマ)花井 等(著)若松 篤(著)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 目的意識をしっかりと持ってすすめてください。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 医療秘書実務・医療管理学			担当教員 氏名: 中村 尚紀			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	保健医療ソーシャルワーカー受験資格	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			医療機関の組織や多職の専門性等の理解を深めるため、医療現場の現状を踏まえた授業を行う。			
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード			
医療機関で働くために必要な病院組織と運営、医療法や診療録の管理、患者接遇について学ぶ。			医療の歴史、病院組織と経営、医療法、医療保険、診療録、患者接遇			
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			医療現場の基本的な知識を身につける。			
B 専門的技術			患者接遇の技術を習得する。			
D 問題解決力			患者や家族への対応に関する課題を解決する力をつける。			
E 自己管理能力			自らの心身の健康を管理し、自律した行動ができる。			
G 倫理観			医療の現場の倫理を踏まえて行動できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度、授業中の課題提出状況等で評価する。 本科目ではアクティブラーニングの一環として、ディスカッション・ディベートを行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①医療秘書の概念、医療機関倫理と医療職員の倫理			【予習】教科書第1章1・2を読む。 【復習】教科書第1章1・2をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
②医療職員に求められる要件、医療機関の接遇マナー			【予習】教科書第1章3・4を読む。 【復習】教科書第1章3・4をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
③医療保険制度のあらまし			【予習】教科書第2章医療保険制度のあらましを読む。 【復習】教科書第2章医療保険制度のあらましをトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
④医療機関組織			【予習】教科書第2章第1部1を読む。 【復習】教科書第2章第1部1をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑤組織の役割と運営			【予習】教科書第2章第1部2を読む。 【復習】教科書第2章第1部2をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑥医療機関事務管理の専門性と必要な基本知識			【予習】教科書第2章第1部3を読む。 【復習】教科書第2章第1部3をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑦医療と情報			【予習】教科書第2章第1部4を読む。 【復習】教科書第2章第1部4をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑧医療法			【予習】教科書第2章第2部1を読む。 【復習】教科書第2章第2部1をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑨医師・医師法			【予習】教科書第2章第3部1を読む。 【復習】教科書第2章第3部1をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑩保健師助産師看護師法			【予習】教科書第2章第3部2を読む。 【復習】教科書第2章第3部2をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑪薬剤師・臨床検査技師・その他			【予習】教科書第2章第3部3を読む。 【復習】教科書第2章第3部3をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑫医療保険の概要、医療保険の種類			【予習】教科書第2章第4部1・2を読む。 【復習】教科書第2章第4部1・2をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑬三重指定制度、後期高齢者医療制度、高額療養費支払制度、公費負担医療制度、労働者災害補償保険制度			【予習】教科書第2章第4部3・4・5・6・7を読む。 【復習】教科書第2章第4部3・4・5・6・7をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑭介護保険制度の基本構成、医療と介護の連携			【予習】教科書第2章第5部1・2を読む。 【復習】教科書第2章第5部1・2をトレーニングノートにまとめる。		【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ			【予習】教科書第1章～第2章を読全体を復習をする。		【予習】240分	
使用テキスト:「メディカルシステム論」医学一般」医療教育協会			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 医療現場で使用する専門知識や専門用語が多くあるため、予習や復習を行い講義に臨んで下さい。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名：生涯スポーツ演習				担当教員 氏名：小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
自らが、生涯を通じ体を動かすための知識と技術を習得し、自分自身が生涯を通じてスポーツに取り組めるようにすると同時に、障害者の運動実践についても知識と技術を身につけることで、幅広いスポーツ実践及びスポーツ指導が可能になることを目指す。						
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7	
A 知識・理解力			生涯スポーツ・障害スポーツに必要な知識について理解する			
D 問題解決力			様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める			
F チームワーク・リーダーシップ			チームメイトと協力して実技を行う			
成績評価の方法・基準：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：	%	レポート：	%	発表： 30 %	実技試験：	%
					その他： 70 %	
特記事項：障害者スポーツ指導員初級を取得することが必須です。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 障害者スポーツ指導員初級を取得する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート用紙返却時にコメントにてフィードバック						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション：障害者スポーツ指導員制度について				復習：制度について理解する	20分	
②健康づくりと体力づくりについて：障害者スポーツの意義				復習：障害者のスポーツ実践について理解する	20分	
③健康づくりと体力づくりについて：障害者スポーツの意義と理念・大会の概要				復習：障害者スポーツ大会について理解する	20分	
④体力向上のための運動について				復習：トレーニングの原理・原則を理解する	20分	
⑤スポーツイベントへの参加：障害者との交流(障害者スポーツ大会への参加) ※説明会				復習：障害者スポーツ大会に参加する	20分	
⑥スポーツイベントへの参加：障害者との交流(障害者スポーツ大会への参加) ※集中講義				復習：障害者スポーツ大会に参加する	20分	
⑦スポーツイベントへの参加：障害者との交流(障害者スポーツ大会への参加) ※集中講義				復習：障害者スポーツ大会に参加する	20分	
⑧スポーツイベントへの参加：障害者との交流(障害者スポーツ大会への参加) ※集中講義				復習：障害者スポーツ大会に参加する	20分	
⑨スポーツイベントへの参加：障害者の支援(富山マラソン車いすの部) ※説明会				復習：障害者をサポートする	20分	
⑩スポーツイベントへの参加：障害者の支援(富山マラソン車いすの部) ※集中講義				復習：障害者をサポートする	20分	
⑪スポーツイベントへの参加：障害者の支援(富山マラソン車いすの部) ※集中講義				復習：障害者をサポートする	20分	
⑫運動実践Ⅰ：ウォーキング・ノルディックウォーキング：障害に応じたスポーツの工夫・実施				復習：スポーツを実践する	20分	
⑬運動実践Ⅱ：ジョギング・ランニング：障害に応じたスポーツの工夫・実施				復習：スポーツを実践する	20分	
⑭運動実践Ⅲ：バリアフリーの運動：障害に応じたスポーツの工夫・実施				復習：スポーツを実践する	20分	
⑮振り返りと今後の課題				復習：振り返りを行う	20分	
使用テキスト： 障がいしやスポーツ指導教本 発行：株式会社ぎょうせい ISBN978-4-324-10107-0				その他参考文献など：運動とスポーツの生理学		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 資格取得の関係上、集中講義への参加が必須です。参加できない場合は資格取得ができません。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 臨床美術の実践Ⅱ			担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	臨床美術士4級
実務経験を用いてどのよ: 臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材のうな授業を行っているか: 理解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。						・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.	
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。			
B 専門的技術			状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。			
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %
その他: 10 %						
特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイング、現場実習の理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
使用テキスト:『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※本科目は「臨床美術」「臨床美術の実践Ⅰ」の単位取得者のみ受講できます。 本科目は日程が不規則になっています。授業日時をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみ記載してあります) 諸事情により実習の予定を変更せざるを得ない場合があります。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
回数						
1	①【岡野】指導案演習「フリー実習振り返り」			10月8日	【予習】: フリー実習(報告書) 様々な技法を試す・様々な紙を試す	420分
2	②【岡野】臨床美術コミュニケーションⅡ「現場セッションについて」子ども現場セッション			10月8日		
3	③【北澤】アートプログラム実践演習「実習にむけて試作」			11月26日	準備物: 指定されたモチーフ	
4	④【北澤】臨床美術コミュニケーションⅡ「鑑賞会」			11月26日		
5	⑤【岡野】アートプログラム実践演習「ロールプレイング」①			12月3日	【予習】: 課題図書レポート 準備物: 指定されたモチーフ	【予習】240分

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名： 臨床美術の実践Ⅱ			担当教員 氏名： 北澤 晃、岡野 宏宣	
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)	
			学習内容	学習に必要な時間(分)
6	⑥【岡野】アートプログラム実践演習「ロールプレイング」②	12月3日		
7	⑦【北澤・岡野】実習予習指導・実習準備	12月10日		
8	⑧【北澤・岡野】現場実習	12月24日	【復習】:実習現場記録表	【復習】60分
9	⑨【北澤・岡野】現場実習	12月24日		
10	⑩【北澤・岡野】現場実習	12月24日		
11	⑪【北澤・岡野】アートプログラム実践演習「実習の振り返り」	1月7日		
12	⑫【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング①」	1月21日	【予習】:ゴーギャンの複写	180分
13	⑬【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング②」	1月21日		
14	⑭【岡野】臨床美術基幹Ⅱ-②「臨床美術プロデュース」	1月28日		
15	⑮【北澤・岡野】「総括」 「認定後の活動」	1月28日	臨床美術協会認定申請書 (課題をすべて提出してある学生) 準備物:臨床美術ハンドブック	
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 臨床心理学			担当教員 氏名: 石津 孝治			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 臨床心理士としての心理臨床経験に基づき、事例を提示し、事例検討を行うことにより、理解を深める。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心理的援助についての理論ならびに技法の基礎と心理療法プロセスについて扱う。精神分析やクライアント中心療法、行動療法といった、主要な心理療法各学派の理論と技法について概説した後、事例検討を多く取り入れることによって心理療法プロセスについて学ぶとともに、知識の定着を図りたい。					・心理学的援助 ・事例検討	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリクスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			心理学的援助の理論と技法に関する基礎的概念を理解する			
C 論理的思考力			理論が援助プロセスでどのように生かされるかについてイメージを持てる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション) デベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定める。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストを採点し返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①来談者中心療法の理論と技法に関する知識を習得する。				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
②来談者中心療法が重視する、共感、受容の本質について焦点を当て、事例を用いて理解を深める。				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
③精神分析1(精神分析の人格論、技法論に関する知識を習得する)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
④精神分析2(精神分析の発達論についての知識を習得する。)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑤事例検討1(PTSDの治療例を素材とし、心的外傷の援助について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑥プレイセラピーの理論と技法について学ぶ。				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑦事例検討2(子どものプレイセラピー実践例を素材とし、子どもの援助に必要な知識、態度について学ぶ)				予習。①～⑥までの内容の理解を確認する。	予習30分	
⑧前半のまとめ。心理学的検査法(投影法による人格検査を実体験し、その方法と意義を学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑨事例検討3(うつ病の治療例を素材とし、うつ病者に対する援助方法について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑩事例検討4(子どものプレイセラピーと箱庭を併用した実践例について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑪コラージュ療法体験				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑫事例検討5(被虐待児とその母親に対する心理治療例を素材とし、被虐待児と母親の援助について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑬事例検討6(行動化を伴ったうつ症状を呈する心理治療例を素材とし、行動化の意味と対応について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑭児童養護施設児童の心理的援助について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑮全体のまとめ。心理的援助の本質について				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 精神保健			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのよ心理臨床の実務経験に基づき、精神障害の概要について理解させるとともに、精神保健の実践活動としてうな授業を行っているか: 認知症予防活動のプログラム作成についての演習を取り入れている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
精神保健の概要を学び、精神障害についての基礎知識を習得し、認知症予防・支援の基礎知識と技術を習得する					健康、精神障害、認知症、BPSD、認知症予防プログラム				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 8. 9.				
A 知識・理解力			精神保健の基本的な知識を身につける						
B 専門的技術			認知症予防の支援プログラムを計画的に実践していく力を身につける						
F チームワーク・リーダーシップ			他者と協調・協働し、リーダーシップを発揮しながら認知症予防プログラムの企画・開発ができる						
H コミュニケーション力			自分たちで考案した認知症予防プログラムについて、他者に解るように効果的に発表できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: レポート2本(40%×2)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行なう。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第9回と第15回にレポートを提出する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①精神保健への公共保健アプローチ(WHO)				WHOによる健康の概念を調べる	30				
②精神障害および行動障害の決定因とケア				精神保健に関する歴史的背景を調べる	60				
③精神障害の概要: 統合失調症・気分障害				精神病について調べる	60				
④精神障害の概要: 神経症・心身症				神経症・心身症について調べる	60				
⑤精神障害の概要: 精神遅滞・発達障害				精神遅滞・発達障害について調べる	60				
⑥乳幼児期・児童期の精神障害および行動障害				子どもの精神障害について調べる	60				
⑦思春期・成人期の精神障害および行動障害				青年期の精神障害について調べる	60				
⑧高齢期の精神障害および行動障害				高齢期の精神障害について調べる	60				
⑨認知症予防・支援の考え方				①～⑧をレポートにまとめる	120				
⑩認知症予防・支援のハイリスク・アプローチ				認知症予防・支援について調べる	60				
⑪認知症予防・支援のポピュレーション・アプローチ				認知症プログラムについて調べる	60				
⑫ポピュレーション・アプローチによるプログラムの企画				プログラムを企画する	60				
⑬ポピュレーション・アプローチによるプログラムの開発				プログラムを開発する	60				
⑭ポピュレーション・アプローチによるプログラムの改善				プログラムを改善する	60				
⑮ポピュレーション・アプローチによるプログラムの評価				プログラムを評価し、レポートにまとめる	120				
使用テキスト: テキストなし。必要な資料は授業時に配布します。				その他参考文献など: 吉武光世(編)はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学―「こころ」の健康をみつめて[学文社]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業計画の前半では、精神保健の概要について講義を行います。基礎知識を習得した上で、後半では認知症予防・支援のプログラム開発に取り組み、アクティブ・ラーニングで学びます。後半では特に、協調性・自発性・リーダーシップなどの実践力が問われますので、積極的に参加し、学習課題にもしっかりと取り組んでください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 心理学研究Ⅱ			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
自らの問題意識に基づいて、人間の行動や心理に関する研究仮説を立て、研究計画を立案し、研究を実践し、結果を報告書にまとめプレゼンテーションを行います。この実践を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける「私」をつくります。					行動・心理、研究仮説、実験・調査、考察、論文作成、プレゼンテーション・パブリケーション				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 9. 10				
A 知識・理解力			心理学研究の基礎知識を身に付けている。						
B 専門的技術			人に関わる問題について、心理学的に研究する技術を習得している。						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。						
D 問題解決力			人間の行動や心理に関する問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。						
H コミュニケーション力			自ら学び、考え、得た情報を的確にまとめ、解りやすく人に説明できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 研究への取り組み態度(20%)、得られた成果の論文報告(50%)、研究発表(30%)に基づいて成績評価を行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは第15回に行う。また研究発表については別途行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 研究の進行度に応じて、適宜フィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①心理学研究の進め方、注意事項等についてのガイダンス。				特に指定しないが、研究なので、自らテーマ設定をし、資料収集し、データ収集し、考察し、論文を作成する	240				
②研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
③研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
④研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑤研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑥研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑦研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑧研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑨研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑩研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑪研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑫研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑬研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑭研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察					240				
⑮論文の作成および提出、研究発表の準備					240				
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は、自ら収集してください。				その他参考文献など: 「心理学研究」、「社会心理学研究」、「Journal of Personality and Social Psychology」等の学術雑誌					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): これまでに学んできた心理・福祉の知識と技術を総動員して、自ら問題を発見し、研究するアクティブラーニングで学びます。時間割日程に加えて完全個別指導で研究を進めていきます。安心して履修してください。									